

教員名	田村 智英子 (TAMURA Chieko)
所属	人間文化研究科特設遺伝カウンセリング
学位	Sc.M., C.G.C (USA)
職名	助教授
URL/E-mail	http://www.dc.ocha.ac.jp/lifescience/GC/c_tamura@t3.rim.or.jp

◆研究キーワード

遺伝カウンセリング / 遺伝子診断 / 心理社会的遺伝カウンセリング (psychosocial genetic counseling)

◆主要業績

総数 (53) 件

- ・ Chieko Tamura : The Family-Facilitated Approach Could Be Dangerous If There Is Pressure by Family Dynamics. *American Journal of Bioethics*; 6 (1), 2006, 16-17
- ・ 田村智英子 : 遺伝カウンセリングとは—十分な遺伝カウンセリングが提供されていたら. 和田幹彦編著『法と遺伝学』第2章「遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング」第4節, 法政大学出版局, 2005, 69-76
- ・ 田村智英子 : 海外における遺伝カウンセラーの活躍. 千代豪昭ら監修『遺伝カウンセラー』第8章, 真興交易医書出版, 2006

◆研究内容

(1) 日本の遺伝カウンセリングのあり方に関する研究 (文部科学省科学技術振興調整費「先端医学の認知に向けた社会的基盤調査」研究) : 日本と諸外国の遺伝カウンセリング制度の調査、遺伝カウンセリング従事者および従事者養成教育実施者の意見を聴取、さらに遺伝カウンセリングを受ける人々の期待や要望を聴取、これらの現状と課題をまとめて整理した上で、我が国における遺伝カウンセリングの制度や実践のあり方を検討。

(2) 遺伝カウンセラー養成教育の研究 (文部科学省科学技術振興調整費) : 学生からのフィードバックも活かしながら、非医師専門職遺伝カウンセラー養成のカリキュラム研究および遺伝カウンセラー養成教育のモデル構築を目指して研究実施。

(3) プリオン病の患者・家族に対する支援システムの研究 (厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班」研究) : 希少難病であるクロイツフェルト・ヤコブ病 (その10%は遺伝性) を始めとするプリオン病の患者、家族の心理支援体制のあり方を検討。

(4) 遺伝カウンセリング臨床実践

東京医科歯科大学遺伝診療外来および木場公園クリニック遺伝カウンセリング部門において、週1.5日程度の頻度で、産科、小児科、成人の遺伝科領域の遺伝カウンセリングに従事。2005年度は約200件のセッションを実施。

◆教育内容

米国には約2000人の非医師専門職の遺伝カウンセラーが存在するが、日本の遺伝カウンセリングは長年医師によって担われてきたため、非医師遺伝カウンセラーの養成は始まったばかりである。我が国における最初の非医師遺伝カウンセラーであり、国内で唯一米国の遺伝カウンセラーとしての正規認定資格を有する田村は、本学において他の教員と協力し、外部の複数の医療機関とも連携して、遺伝カウンセラーとなる人材を養成すべく教育研究と実践を重ねている。

田村の担当としてはまず、新しい学際的な学問領域としての「遺伝カウンセリング学」を主軸にすえ、日本において学生たちがこれからの遺伝カウンセリング分野をリードする人材となり遺伝カウンセリングとは何かということについて洞察力に富む議論ができるように、国や制度、職種、診療科領域や立場の違いによって様々に異なるとらえ方や概念の広がりについて学生が考える機会を提供している。

さらに田村は、他の授業等で修得した遺伝医学的知識と心理カウンセリングの理論や技術を統合して遺伝カウンセリング実践に結びつけるための実践的な理論と技術に焦点を当てて指導している。中でも、遺伝カウンセリングの心理社会的側面については多くの時間を割いて、その理論的な背景と実践心用的なスキルの教育に力を入れている。

また、田村は、日本ではほとんど知られていない遺伝カウンセリング研究とそのための研究方法論についても学生に紹介、学生が今後日本において優れた遺伝カウンセリング研究を実施できるようになることを目指して指導している。

◆Research Pursuits

One of the major themes of my research is to consider the better genetic counseling practice and the system in Japan. I have investigated different systems in several countries. I have gathered opinions from Japanese genetic counseling providers (mostly physicians). Actual and potential clients (patients and Families) are also interviewed to understand their needs and expectations.

How to train genetic counseling providers is another important area of my research. We have been trying to figure out the model of the master level of the genetic counseling training graduate program.

I have also been a member of the prion disease research group, where I have been trying to establish the family support system in Japan, especially from counseling point of view.

Besides research and educational activities, I have a couple of part time clinical position to provide genetic counseling practices. I conducted about 200 genetic counseling sessions from April, 2005 to March, 2006, including prenatal, pediatric, and adult genetics cases.

◆Educational Pursuits

Since genetic counseling has been primarily conducted by physicians in Japan, training non-MD master level genetic counselors is a very new thing. With other staff at our school, as well as other opinion leaders of the field of genetics medicine, I have played the major educational role at our newly established genetic counseling graduate program, as I am the Japan's first non-MD genetic counselor, who is formally trained in the US.

I have taught our students the depth and the variety of the concept of genetic counseling so that they will be able to develop their own future visions.

Our students will also learn how to integrate genetics information provision and psychological counseling skills to provide genetic counseling practices. I have been focusing on psychosocial aspects of genetic counseling. Students will learn theory-oriented and practice-based skills.

Research methodology is another important area that I have been teaching. I have introduced major articles of former genetic counseling research studies so that our students will conduct good research activities in the future.

◆将来の研究計画・研究の展望

我が国では学際領域としての遺伝カウンセリング研究はまだあまり知られていないが、優れた遺伝カウンセリングサービスを提供するためには、研究の充実による当該分野の発展が必須である。諸外国の遺伝カウンセリング研究の現状を積極的に紹介しつつ、日本の遺伝カウンセリング研究の基礎を築くことは、本分野の先駆的立場にある私の使命のひとつであると考えている。具体的にはたとえば、遺伝医療制度調査、来談者の期待や要望調査、遺伝カウンセリングの成果やプロセス、方法論の研究、人材養成研究、生命倫理的側面や法制度や健康保険・福祉制度などの研究等が考えられる。今後新たな研究課題も随時見出していきたい。また、研究実施にあたっては、最終目標は患者、家族に対して優れた臨床実践を提供することにあることを念頭におき、そのために意義のある研究に重点を置いて研究を推進していきたい。特に、遺伝カウンセリングの心理的、社会的側面に注目した研究は欠かせないと考えている。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・ 遺伝医療従事者や当事者団体との共同研究として、遺伝医療制度のあり方や患者・家族の期待やニーズの調査が可能。遺伝子診断実施企業との共同研究により、情報提供ツールの開発なども可能である。
- ・ これまでに登録した特許、実用化テーマ、テーマの実用化の予定は特にありません。

◆受験生等へのメッセージ

遺伝カウンセリングは、充実した医学的知識や心理カウンセリング技術などが必要な学際的分野であり、患者、家族に提供する最新情報を得るためには英語力も必須です。日本における専門職遺伝カウンセラー養成は始まったばかりでまだ混沌としている部分も多々ありますが、新しい分野を築いていく醍醐味を味わいたいという気概のある方、そして心理援助職としての強さと繊細さを併せ持ち、自身や他者に対する深い洞察力と幅広い視野を持つ方々に、ぜひチャレンジしていただきたいと思っております。皆様とともに、日本の遺伝カウンセリング分野を発展させるために力を尽くしていきたいと思っています。